

SHIMIN PRESS の
バックナンバーは
インターネットで
ご覧頂けます。
WEB SHIMIN
http://www.shimin.info

SHIMIN PRESS

市民プレス：第9号

2003年05月01日
(隔月刊、無料配布)
発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」
編集人 原 昭二
制作・印刷 デジタル工房
FAX 048-476-9111
〒353-0004
埼玉県志木市本町5-18-24

地域を立てて直す主役は 一体だれなのか？

中央から地方へ、 地方分権の時代

中央の政党の力が取り仕切れる時代から、地域を後ろ立ててきた脱政党の首長が続々と生まれている。中央から地方へ、地方分権の時代へと変貌を見せている。地域の担い手は一体だれになる？

◆ ◆ ◆

地域の活性化に熱心な政治家は少なくない。しかし地方の首長は、自分の思い通りにことを運ぶことには熱意をもっているが、しばしば自己満足に陥りがちだ。

私たちが、地域の議会のために一人の議員を信頼し、選出しても、議員さんが何人か集まらないと議案の提出はできない。役所の職員も、しばしば議会対策に走り、苦情を言う市民の対策に走ったり、一体何をしようとしているのか、行き詰まりの様子が見えてくる。これまではピラミッド型の上意下達方式であったが、これからは、下から上へ、市民の一人一人の思いが行政に生かされるよう努力が必要だ。市長の公約の点検、評価も市民によって常に行われるべきだ。

多様化したつらある地域の問題の解決に向かって、新

しい組織が目立ってきている。自発的に組織化された非営利活動法人NPOがその代表。NPOは、疲弊した既存の組織に代わる新しいエネルギー源として期待を担うようになってきた。地域にはあらゆる課題があっても、NPOはいくつあっても足りないくらいといわれる。少々大規模のものが、例えばイギリスには約二十五万人の人口当たり、一千ものNPOがあつて活動しているという。

非営利を基本とする民間の組織は、九十五年に起きた阪神大震災のさいにボランティアが重要な役割を果たしたことを契機として注目され、九十八年にNPO法が施行された。全国のNPO法人はいまや月二万件のペースで増えているという。

すでに本紙でも取り上げたように、NPO法は、活動の「不特定かつ多数のもの」の利益の増進に寄与する「活動」とし、具体的に二の分野を規定している。現行では、つぎの活動分野がある。

- ◆ 保険・医療・福祉、社会教育、まちづくり、文化、芸術、スポーツ、環境保全、災害救援、地域安全、人権、平和、国際協力、男女協同参画、子どもの健全育成、NPOの連絡、助成
- ◆
- ◆

五月から加わる五分野として、情報化、科学技術、経済活性化、職業能力の開発、雇用機会の拡充、消費者保護がある。

要件を満たしていれば、国や都道府県は書面審査でNPOに法人格を与えるが、行政が関与する余地を少なくし、市民の自主的な判断を重視するため、情報公開を通して市民が相互に選択、監視する仕組みになっている。公的な信頼性の保証はない。

NPOの資金は行政からの委託事業と補助金、会員の会費などで賄われ、ほとんどの都道府県が市民活動への支援を定めている。NPOと行政との連携の動きも進んでいる。ただしボランティア組織が単なる行政の下請け関係に陥らぬよう、例えば英国では、政府がNPOなどの独立性を認め、支援することを約束する合意文書を作成している。

NPOは便利屋という意識が行政に広がって、NPOが下請けにならぬよう双方の協働体制の構築に心掛けねばならない。

志木市では「市民との協働による行政運営推進条例」をすでに可決して、「行政パートナー」を制度化するという。この制度は、市民との協働によって職員の仕事を肩代わりさせ、行政の負担を軽減しようとするものだが、行政主導の体制は変わっていない。

市民グループは行政といつても対等な関係を築きつつ活動し、下請けにはならぬようにしたい。

皆に好まれるのか高層ビル

「六本木ヒルズ」は、超高層ビルの景観、眺望の素晴らしさ、ショッピング、レストランの豊かさによって、華やかにデビューした。「汐留シオサイト」に続く東京再開発の象徴として喝采を浴びている。綿密な準備に裏付けられた計画は大きな成功を収めたようだ。

都市の再生をかけて、建築の連続性が短縮され、容積率も緩和されたため、都市の超高層ビルの建設ラッシュは一層盛り上がりを見せようとしている。しかし高層ビルは隣接する古い建物、細い路地に囲まれ、オープンスペースは落ち着かない。谷間からわずかにのぞく空はまぶしい。高額の賃料を負担できる企業や住民は「勝ち組」となり、競争社会の波は荒い。喜んでばかりはいられない。

このような高層ビルの流行は、都心から離れた郊外にも押し寄せてきた。所沢市では十数年前に地区再開発の整備基本計画をまとめ、その結果相次いで超高層マンションが建設された。周辺の住民は眺望を制限され、圧迫感や、プライバシーの問題、ビル風などに悩まされている。歴史的な景観は失われようとしている。

東上線志木駅周辺の住宅建設は最近とみに勢いを増し、容積率一杯の高層の建築が目白押しだ。住宅建設もとうとう十階を越え、十四、五階が当たり前になってきた。慶応義塾大学跡地は丘の上に十四階約二百五十戸が建つ。志木駅周辺の中高層住宅の建設は、朝霞市新座市域を含めれば、不動産業者の予想によれば、近々一千戸を越すだろうとのこと。和光駅周辺では賃貸住宅は拡充しており、朝霞駅周辺の建築計画も活発をきわめている。土地利用の効率化のため建物は空に向かって登る（そびえ）立



■国の有形文化財に登録された「朝日屋原薬局」

高層ビルの建築計画が、日照や、風害、電波障害などの保障で済まされても、住む、生活するまちの景観に空がなくなってもよいのか。樹木を植えて緑を添えればよいというのでは空が息づく。特色もある。高層ビルの建築では、綿密な計画を立て、時間的にも余裕をもたせて進めるようにしたい。質の高い開発が行われるよう、みんなでもっと考えよう。

朝日屋原薬局は志木市本町のバス通り、旧「奥州道」に明治二十年（一八八七）ころ創業したが、今回登録された建物は、明治四十五年現在地に建築された主屋、十蔵、物置のほか、大正、昭和を経て増築された洋館、離れなどの全棟で、縦長の千五百平米の敷地に並ぶ建物が、老舗薬局の店構えと建物構成をよく残していることが評価された。

すでに登録されている埼玉県の文化財は、この七件を加えて五十五件となる。古い建物がつぎつぎに消えて行くでも、歴史のかけおきという気持ちで大事にしたい。

朝霞・志木・和光・新座四市の合併協議は打ち切られる

四市合併の是非を問う各市の住民投票は4月13日に行われたが、和光市民の反対が賛成を上回ったため、法定合併協議会は、四市合併の話し合いを打ち切った。長い時間をかけ、関係者の多大な努力は報われることなく、各市議会の議決を経て、協議は正式に取り止めとなる。

和光市民の多くが通勤や買い物などで東京都とかかわりが深く、以前から四市合併になじめないのでは、との危惧がもたれていた。市民の率直な意見が投票結果に表われたのである。

また新座市の投票結果で、賛成が反対を上回ったとはいえ、僅少差であったことは、関係者にとつてショックであったようだ。この結果は、市民の生活圏が東武、西武の両線に二分されている、西武線を利用する方々の拒絶と見る向きが多い。

投稿欄

施設の共通利用は市民の願いです

住民投票の結果、朝霞・志木・和光・新座四市の合併協議は御破算になったので、今後の四市の関係は、新しい構図を描くことになると思いますが、いままでも四市が進めてきたいくつもの提携関係は是非壊さないでください。図書館や体育館など、四市市民がともに利用できる体制はさらに緊密なものになるように念願しています。例えば、朝霞市の「わくわくドーム」、志木市の「湖ぐうじょう」、和光市の市民文化センター「サリアセラ」、新座市の「ほっとプラザ」をはじめとして、互いに共通に利用したい優れた設備は少なくないのです。（新座市東北の住人）

四市の合併協議は、随分手間ひまを掛けて行われたのに、住民投票の結果はこれを否定するものとなりました。このプロセスの真只中で合併の行方を見守ってきた市民として、考えさせられることが沢山あります。第一に住民の率直な意見を協議の過程で、もっとよく聞く手立ては無かったのでしょうか。法定合併協議を行うさいに、四市の首長をはじめとして、各市行政、議会などの関係者が市民の立場に立ってこの問題を考えるべきではなかったか。腰に力を入れて取り組む姿勢が十分ではなかった、との感想を禁じ得ません。住民の投票結果は参考にはすべきですが、これまでの協議には手ばかりはなかつたのでしょうか。（志木市館の住人）

合併協議の打ち切りについて思う

住民投票の結果	朝霞市	志木市	和光市	新座市
投票率(%)	45.42	43.26	48.16	54.12
賛成票数(票)	26,494	13,376	5,962	32,750
反対票数(票)	15,264	8,831	19,825	29,688

歴史を紐解く

ひもとく

引又宿の賑わい

その⑧

「引又」のころ

東武東上線の「志木駅」東口を降り、歩いて約16分、本町1、2丁目の大通りは、江戸時代から新河岸川の舟運によって賑わっていた。明治初年までは街道の宿場でもあり、「引又宿」と呼ばれていた。

新河岸川の舟運

ときは江戸時代、寛水のころに遡る。埼玉県西部の中心都市「川越」は、かつて江戸城北方の重要な防衛拠点だった。江戸と深い関係をもった史蹟が数多く残る川越は、いまも「小江戸」といわれているが、寛永十九年(1642)大火に襲われ、市内の重要な建物だった東照宮、喜多院などが焼失した。当時の東照宮は三天東照宮の一つに数えられていた。徳川幕府はその再建のために大空神社を使つた。さつそく江戸城にあった紅葉山御殿を分解して、用材を川越に移築することになり、その運搬には陸路より効果的な新河岸川による水運が選ばれた。新河岸川の舟運はこのときからじまるとされている。また川越からは農産物が江戸に送られ、その後新河岸川の舟運は次第に整備され、ついに川越と江戸との物資交流の大動脈となった。

江戸と川越との物資の輸送のため中継点が必要になり、現在川沿いに建っている志木市役所前の下流、柳瀬川と合流する地点に船着場が設けられた。当時この辺りは引又村といわれており、その河岸「引又宿」は、川越藩主の命令によって、井下田回漕店が開業した。

回漕店を支えてきた井下田家は、初代から十八代にわたって綿々と引き継がれたが、十六代慶十郎は舟運に代わる交通機関として東武東上線「志木駅」の誘致に努め、十七代四郎氏は志木町長として、また現在の当主十八代井下田慶一郎氏は志木市駅前整備などに努めて地域に貢献されている。伝えられた古文書は五百点以上のほり、志木市の歴史を形作る重要な資料となつている。井下田四郎氏が執筆された「引又河岸の二百年」(非売品)によると、荷主の分布は、新座、清瀬、所沢、小平、国分寺、武蔵村山、立川を越え、秋川、青梅、八王子にまで達していた。新河岸川に沿って開設された多くの河岸場の中で、引又河岸が取り扱う荷物の量は非常に多く、河岸場の中で重要な地位を占めていた。



図1 「江戸名所図会」より 手前が旧米橋 その上は「いろは橋」



図2 文化十一年(1814年)の古地図より(高橋長次氏が写されたもの)

荷揚げされた荷物を運搬する人々は、だんだら坂を上ってゆく。回漕店の作業所は、船着き場から突き当たりまで、この通りの右側に続いていた。

旧「米橋」を渡った奥州道は、昭和20年代に架けられた新「米橋」を通過する志木街道(浦和東村山線)と、同じ頃新設された防衛道路(川越新座線)に旧井下田家の前で交差する。いまこの「市場坂上」交差点は、交通のりとも激しい地点となつている。

舟運が栄えていたころの「井下田回漕店」のたたくまいを偲ぶことはもはやできなから、土蔵と井戸などが残され、敷地の一部は市の公園として公開されている。この地点には、もう一つの小道が広がっている。現在「日本ワイズレダリー」の工場へ入ってゆく。「鎌倉街道」の跡とも言われる細い道だ。

中央を流れる 伊豆殿堀

商いで繁栄した「市場道」



図3 明治二十年に出版された参謀本部陸軍部測量局の白地図(井上国夫氏蔵)を一部着色

この用水の水は、小根、大根を経て、「いろは橋」を渡っていたが、木製の樋は、明治のころ鉄管に変えられ、川底に埋められた。この鉄管は現在「いろは橋」の宗廟側の橋のたもとと志木市郷土資料館とに陳列されている。

軒を運ぶ商家

河岸場から運ばれた荷物は、この通りで取り引きされたため、市場として繁昌した。また「奥州街道」の宿場として、人馬継ぎ立て業務をも行なっていた。江戸時代の紀行文にも、軒を運んだ商家の行状が生き生きと描かれている。明治になって宿場の機能は失われ、また上野・高崎間の鉄道などの開業によって、河岸場でも荷主の分布が狭められたが、活況はつづいた。

出店の商人や買い物客は、近隣はもとより、遠隔の地域にも及んだ。「引又宿」は志木町と呼ばれるようになったが、明治十四年の「東京近方市場一覽」によると、関東の主要な地域の番付けで、西前頭十四枚目にランクされている。

町の中核をなしていた引又宿の「市場」には、酒造家、肥料商、穀物商、呉服商、荒物商などの大店(おだな)が並び、広い地域にまで販路を広げていた。櫻の並木に挟まれた「伊豆殿堀」がその中央を流れていた。

大正二年、東武鉄道東上線が開通し、舟運に取って代わるまで、賑わいは昭和の時代、戦前まで続いた。

江岸時代中期のころから、引又宿の景観と風情は、多くの人々に愛されてきた。紀行文のほか古地図も残され、いまに伝えられている。

参考資料
1 井下田四郎「引又河岸の二百年」1974、非売品
2 神山健吉「百年前の志木、郷土志木」28号p20(1999)、志木市郷土史研究会
謝辞
紀行文の注釈は神山健吉氏の校閲を戴いた。



図4 いまの地図。市場坂上(着色部分は明治のころの川と道。現市役所は川の中になる)



図4・5 市場通りで。宮岡シート店所蔵。4(上)は大正のころ、5(下)は昭和になってから



図6 9・10は市場通り、市役所の方向を眺めると、9(上)は自動車の列、10(下)は通行する人々、買い物客より高校生が目立つ



図7(上) はかつての船着場から「いろは橋」と新「米橋」を望む



図8(右) 「市場坂上」からかつての引又河岸を望む

図7・8・9・10 現代風景



図9(右) 本町通りの「朝日屋原業局」。本年三月、国土の歴史的な景観に寄与しているとして、文化審議会から登録有形文化財として指定されるよう答申された



図11(右) 本町通りの「朝日屋原業局」。本年三月、国土の歴史的な景観に寄与しているとして、文化審議会から登録有形文化財として指定されるよう答申された



図12(右) 井下田四郎著「引又宿の二百年」表紙

大地 礼賛

水車あれこれ

水車が使われるようになったのは江戸時代のこと。台地を流れる川やその分水を利用して、高低差で水車を廻し、作業の動力として使用された。

水車の仕組み

榎(もみ)から種の殻を取り除くと玄米に、さらに茶色の薄い皮をはがすと白米になる。玄米を臼に入れた、杵(きね)でついてお米同士を互いに擦り合わせるのだが、人力での作業はつらいものだった。踏み臼や水車がそれに代わって杵を動かす力になり、精米業が成立した。剥がされた外皮は米糠で、肥料や遺物に使われた。

水輪の芯棒が水の流れて廻ると、噛み合わせである杵がもち上がり、上までゆくと杵の重みでドスンと落ちて、穀物をつく。あるいは、石臼を水車で廻し、穀物を粉にする。このときは心棒の歯車(図1)と石臼に付けた歯車を噛み合わせ、小麦、大麦、そばの粉引きは製粉業になった。

この地方は江戸という大都市を控えていたので、雑穀を製粉して商品とし、うどんや菓子の原料として売られた。武蔵野台地に水車をもちつ農民は、こうして富を蓄えた。水車に使う分水が平らな台地を流れるときには、廻し堀という水路に水輪を架

け、使った水をまた下流の本流に戻すことが普通だった。高低差がある崖の端の水路では水輪の上部から水を掛け、大きな力を得た。

水車の分布

この地域で使われた水系は、野火止用水のほか、黒目川、柳瀬川など。

新座市立歴史民俗資料館には、黒目川の水を使った新座市石神の新井家の水車の模型が展示されている(図2)はその模型と見取図。新井家の水車の水輪の直径は四メートル近くあり、水輪の直前で落差をつけて回転する仕組みをもっていた。また水車にかけた水を、トンネルを掘って黒目川に戻す工夫がなされていた。水車小屋の中には、粉挽き場と米つき場があった。

志木街道が東上線を跨る手前から志木市幸町に向かい、現在の志木ニュータウンを経て、柳瀬川に流れ込んでいる野火止用水の分水車を使って操業していた尾崎水車は、明治から昭和七

ころまで、近在、近郷の人々によって利用されてきた。しかし、昭和二十二年に解体された。大野 進氏は記憶によつて尾崎水車を見事に描かれている(図3)。

志木市内を流れていた野火止用水の本流には、東上線のガードを潜ってすぐ村山水車(図4)、市場坂上付近には下の水車があった。かつての「引又宿」(2面参照)の繁華の一面を、水車による精米が担っていた。志木市郷土資料館に模型が展示されている。

新座駅前前の広場では、最



図1(上写真) 榎、樫などの堅い木で作られた水車の歯車

近水車が廻り、また朝霞市博物館では湧水で水車を運転しているの、その景観を楽しむことができる。

水力から電力へ

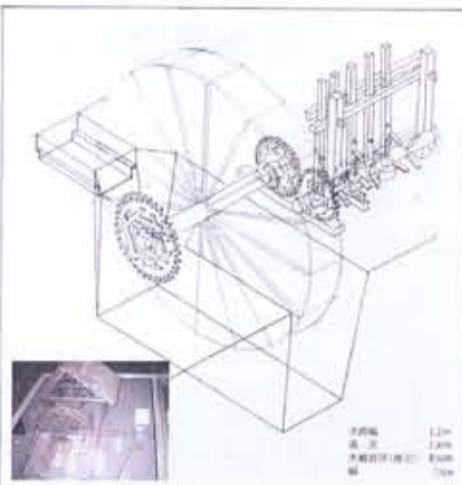
さて幕末のころ、黒目川に水車を掛けて針金を引く産業が起り、朝霞市勝折の伸銅業に引き継がれた。

伸銅とは、銅や真鍮などの銅合金を伸ばして棒・線・板・糸(リボン)状の細長い板)・管などを製造するもので、昭和三十年ころまでもっとも有力な地場産業だった。しかし電力が供給され始めてから、動力はもっぱら電力に依存することになり、また河川改修のため、水車は急速に姿を消した。

戦後は諸外国からの金属の輸入、技術革新の波に洗われ、朝霞市が誇る勝折の伸銅業は次々と転業を余儀なくされた。水車はついに消滅し、勝折の景観は大きく変わった。

参考資料

- 1・肥田博著「玉川上水」、親子の歴史散歩、たましん地域文化財団発行
- 2・新座市立歴史民俗資料館の資料(図1・2)
- 3・朝霞市博物館調査報告書第一集、水車・伸銅・りんじん
- 4・神山 健吉「近世引又の水車、郷土志木、3号p46(1973)、志木市郷土史研究会



新井家水車・水輪部分見取図

図2 新井家の水車見取図(右)と模型(左下)を徳富絵

図3(左写真) 尾崎水車を徳富絵



図4(左写真) 尾崎水車の跡地はいま

図5(左写真) 志木市の「上水車」のミニユメント



耳飾り

よこむいて
少女がふせば
涙が そつと流れる…

耳たぼはまるく
月と星とが 輝いて…

それは少女の
耳飾り…

かいじろうの詩・絵



小鳥のいる風景 1900

参考文献

『遊歴雑記』
釈 敬順(注1)
文化年間

『一日二日の旅』
東京の近郊
田山花袋(注2)
大正九年六月十五日

新座郡引又宿

(前略) されば引又の宿ハ、南北の町長三町余、新宿、本宿、中宿、坂下町と次第して町幅広く、酒樓、食店、商家、旅館屋向側に軒をたらし、片側には都会の土地にして、例月三、八の市日のため、事となん、又引又新座の人口より、町の真中に大極を埋め、幅三尺余、深さ四五尺、新座の方は高坂下の方ハ次第に低ければ、清流通り来り来にいさぎよし、此大極の側にいたりて、市中の男女よろづのものあらひすぎ飲水とす、元来此土地高みなれば水に乏しき場なるに、斯淵次に清流に富事ハ、全伊豆守三代目松平信綱が高智のいたす処にして、万宝の最上といふべし、此理極の両側に、柿と梨との二樹を植る事凡長三町、頃ハ九月九日なれば梨柿ともに見事に熟し、重たげに樹のおの届くといへども、児童だに狼籍せざるハ一品にして、土地に沢山なる故ならんかし。(後略)

(前略) 野火止の街道の右側では、例の溝渠に添って、農婦が頼りに物を洗っているのを私は見た。やがて少し行ったところから、四角を右に折れて、私は志木の停車場のある方へと行った。

停車場近くに来た時には、もう灯が明るく夕暮の空気の中に見えてきた。路傍には、綺麗な水の一杯に満ちたその溝渠が流れて、ある処では盛に水車が動いていたりした。そして、その溝渠と一緒には、私達はさびしい、しかし静かな昔の引又の里へと入って行った。

その溝渠を中央に持ったその町は風情に富んだ町であった。大きな穀屋の、運酒店の、呉服店のが軒を並べてゐた。河港らしい感じがそこなくあたりには漲つてゐた。私達はそこの中ほどにある一旅館のひろい一間に一夜をすごした。

岩機の方へと出て行った。あくる朝早く、私は町を歩いて見た。その溝渠の岸には桜が栽えてあって、その下では町の人達が物などを洗つてゐた。そして、この溝渠は、昔はいろは備内川(注3)を越して向ふに行くやうになつてゐたのが、今は、町の外れで大きな鉄管になって、川の底を越えて、向ふに行つてゐるのを私は見た。

だからと坂を下りると、町はやがて尽きて、向ふには風情のある橋がかつてゐた。川の岸には青々とした芦荻が茂つて、荒川を上つて、更に此処まで入つて来た伝馬が帆を畳んだまま二三隻其処にかつてゐた。成ほど此処は武蔵野の河港であるのであった。(後略)

(注1) 釈 敬順「江戸を中心として各地の名所旧跡を踏査し、全五巻の『遊歴雑記』を完成させた。この著作は近世紀行文中の白眉とされる。

(注2) 田山花袋「明治・大正時代の自然主義派の作家。『蒲団』や『田舎教師』などの作品がある。

(注3) 内川：後の「新河岸川」。荒川の内側を流れるところから、名付けられたという。その後江戸との舟運のため、川越に河岸場がつくられ、新規の河岸から流れてくる川という名称(新河岸川)が、もとの「内川」に取って代わった。



新型コロナウイルスをもつ

「SARSウイルス」と

東南アジアを中心に、多数の死者を出している重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体が、オランダでの感染実験などをもち、WHO(世界保健機関)により新型の「コロナウイルス」と断定された。

「ヒトゲノム」が解読された

人のすべての遺伝情報であるヒトゲノム(参考資料例・WEBサイト「NH

K・遺伝子-DNA」

の解説企画で、日米英など六カ国首脳は、4月14日「解説完了」を宣言した。遺伝子は約三億二千個とわかった。

人の遺伝情報は人体の設計図で、細胞の核の中にあるDNAに刻まれている。DNAは四種類の塩基(ユニット)である文字(ユニット)が鎖状につながっている。今回二十八億六千万の塩基の配列が読み取られ、その精度は99.99%以上という。

原因が究明されたため、今後ワクチンの開発などの対策が進むはずだ。しかもこのウイルスのゲノムもすべて解読された。塩基数(遺伝子を構成するユニットの数)は二億九千七二七二だったという。科学的な研究はこれまで考えられなかったスピードで進んでいる。高度になったサイエンス、テクノロジーの成果、そして国際的な協同作業の賜物であることを忘れるべきではないだろう。



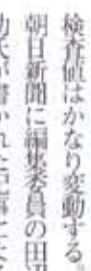
かしい患者になろう

検査値に神経質にはならないで...

職場や地域の健康診断で、あなたの検査値が基準値を外れていると知らされると、よい気分ではない。医師が検査値について何らかの説明をしてくれる場合にはまだしも、判定表や「要精密検査」の通知を受けると、神経質にならざるを得ない。

しかし基準値なるものについて考えてみよう。第一に基準値はもともと95%の健康人がもつ値なので、一項目について5%の健康人は外れる。10項目とも基準値の範囲に収まる人は60%しかないことになるのだ。

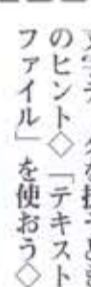
最近の厚生労働省の発表によると、一千万人あまりの検診で、規準値を外れた人は半数近くいたとのことだ。.....



第二に病気でなくても

検査値はかなり変動する。朝日新聞に編集委員の田辺功氏が書かれた記事によると、新年会の御馳走を食べたあと、コレステロール値

が上がり、特にウニ、イクラなどの魚卵を沢山食べたあとは、2、3日後から2週間くらい高い値が出るという。暴飲、暴食は避けなければいけないが、しばらく御馳走を休み、次回の検査値を待つという手もある。それでも決定的に手遅れになるといふことはない筈だ。



ワープロデータについて

だが、よく知られているように、日本語のワープロソフト「太郎」のデータをマイクログソフト社の「Word」(Windowsでよく使われるソフト)で読むことはできない。ワープロソフトが異なる場合、データに互換性はない。また厄介なことに、ソフトのバージョンが違っても、データを開けられないことがある。

ここで本題に入ることにしよう。文字データを誰かと交換するとき、一番確実なのは、「テキスト」(Word)だ。「テキスト」ファイルは、どのパソコンソフト上でも開けることができ、汎用性をもっている。Microsoft「Word」を使うと、文章をモニター上に出すとき、また、プリンターに送るときにも、見栄えが良く、その他多くの機能も利用できる。しかし「Word」で保存したデータ、Word文書(*.doc)はほかのソフト上で読むことはできない。文字のやり取りに限り、機能を絞ったテキストファイルを使うことがベストなのだ。「Word」を使っていても、保存するとき「テキスト」を選び、テキスト(*.txt)にすると、読み書きは軽快になる。

英語を学習するための強力なパートナー

「コーパス」解析とは

英語を学ぶには、「語句」の使い方をまずマスターすることが大切だが、従来その使い方はもっぱら経験によって教えられてきた。そこであまりに基礎的な単語については辞書の説明が不十分であったり、用例として少し変わった言い回しが採用されるなどしていた。

英語学習の強力なパートナーとして、新しい方法、「コーパス」が登場した。コーパスとはアメリカやイギリスで実際に使われている英文のテキストデータを収集した、膨大なデータベースのこと。これを活用することによって、語句の重要度を決定する方法や用例の選び方が、客観的に裏付けされ、「コーパス」で解析すると、その単語がどんな意味でどんな場合によく使われているか、またその単語の前後にはどのような語句が用いられるかが分かる。

NHK教育テレビに4月から登場した「100語でスタート英会話」(講師:榎野龍夫)は、このコーパスのデータベースを使った番組で、毎日10分のレッスンで英会話力をブラッシュアップするポイントが盛り込まれ、中学2年で習う会話レベルで無理なく上達するカリキュラムが組まれている。

一例を挙げて見よう。

■「have」 基本的な意味は「～を持つ」

have + 名詞のトップ10は:

- 1: look 2: time 3: place 4: money 5: problem(s) 6: children 7: idea 8: day 9: job 10: chance

文例として: have a look have time to + 動詞

- have a chance to + 動詞 have difficulty ...ing have a problem with ...

■つぎは「go」 基本的な意味は「行く」

go to + 名詞のトップ10は:

- 1: bed 2: school 3: sleep 4: work 5: church 6: town 7: court 8: college 9: the hospital 10: a [the] doctor

文例として: I want to go to + a bookstore(場所)

- go to bed / go to school / go to work

■つぎに「get」 基本的な意味は「～を手に入れる」

get + 名詞のトップ10は:

- 1: money 2: job 3: time 4: car 5: work 6: number 7: book 8: chance 9: house 10: idea

文例として: How can I get + (もの)?

- get money / get a job / get a chance

コーパス解析をベースにした「ウイズダム英和辞典」(三省堂) ¥3100が発売された。



特定非営利活動法人 NPO「市民フォーラム」

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行って、市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配布します。

本紙は暮らしやすい地域を創るために、市民の方々の取材を通して皆様に共々考えます。また市民が行政と情報を共有することを求めます。 * * *

読者の「オビニオン(意見/考案)」を募集します。 TEL 090-3048-5502 編集担当 原宛にどうぞ